

- ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法
- ・学習指導要領 ・新学習指導要領
- ・東京都教育委員会の教育目標 ・多摩市教育委員会の教育目標

児童の実態

- ・保護者・地域の人に温かく見守られ、健やかに育っている児童が多い。
- ・明るく素直で、静かに話が聞ける。
- ・粘り強く課題に取り組む。

学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた「輝く子」の育成を目指す。○ かしこく ○ 正しく ○ たくましく

保護者や地域の願い

- 「こんな子どもに育ってほしい」
 <関係者評価より>
1. 思いやりのある子
 2. 自分の考えをもち、行動できる子
 3. 明るく元気な子

学校経営方針 《児童の学力向上を目指して》

21世紀に生きる子どもたちには、「自ら考え自ら学ぶ」という姿勢を身に付け、個性豊かに自己実現を図る能力が求められている。そのためには、児童一人ひとりが自分の考えをもち、自ら考えた方法で課題を解決していく力を育てていくことが必要である。そこで、楽しく、わかりやすく、そして一人ひとりのよさや可能性を十分に伸ばしていくことができる授業を日々実践していく。そのために、教師が絶えず研修に励み、その資質と能力の向上を図っていく。

- ・人権尊重教育の推進 ・校内研究の充実 ・地域とともに歩む教育の推進 ・教育環境の整備と充実 ・教育効果向上を図る組織

本校における「確かな学力」の育成

本校では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる学習と、それを活用・探究させ、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習をバランスよく教育課程に位置付け、児童一人ひとりに確かな学力を育成する。

基礎的・基本的な知識・技能の習得

学力の重要な要素

学習意欲

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

指導の重点

各教科

- ・各教科の特性に応じた言語活動の充実
- ・指導および評価方法の工夫・改善
- ・基礎的・基本的な知識技能の習得、活用
- ・問題解決学習の実践、体験学習を重視

道徳

- ・生命尊重や思いやりの心、規範意識をもとにした豊かな人間性を育成
- ・意図的・計画的な授業計画
- ・児童一人ひとりの道徳実践力の向上

外国語活動

- ・英語を用いたコミュニケーション能力の育成
- ・文化の違いの理解を通して、多様な見方や考え方を育成

総合的な学習の時間

- ・主体的に学習に取り組むことができる探究的な授業展開
- ・市民キャリアの活用
- ・教職員による協働体制
- ・情報機器や学校図書館の活用

特別活動

- ・児童一人ひとりの存在感の向上
- ・集団の一員としての自覚を高める計画
- ・異年齢による集団活動の充実と活性化

生活指導

- ・教育相談体制の充実
- ・保護者、地域社会、関係諸機関との連携
- ・児童理解の徹底
- ・生活習慣・規範意識の定着
- ・健康や安全教育の一層の充実
- ・挨拶、言葉遣いなど言語環境の整備
- ・教師と児童、児童相互の温かい人間関係の醸成

進路指導

- ・地域の人々との幅広い交流
- ・自主的・自立的な学習の充実
- ・児童一人ひとりの能力・適正に応じた指導と支援の充実
- ・自分のよさへの気付き
- ・生涯にわたって学び続ける意欲や態度をもつ児童の育成

本校の授業改善に向けた視点

・指導内容・指導方法の改善

- ・少人数指導の形態や指導法を工夫する。
- ・授業や計画的な家庭学習により、国語、算数の基礎・基本の習得を図る。
- ・知識技能を活用する体験的な学習や問題解決的な学習の充実を図る。

・教育課程編成上の工夫

- ・年間指導計画と評価計画を見直し、指導と評価の一体化を図る。
- ・週時程を工夫し、年間授業時数を確保する。
- ・国語、算数の基礎・基本の徹底を図るために、モジュールを活用した時間割を運用する。

・校内研修、OJTの充実

- ・生活科・理科の実践を通して、「豊かにかかわり、生き生きと学ぶ児童」の育成に向けて、研鑽していく。
- ・すべての教員がねらいを明確にした研究授業を計画・実践し、日々の授業改善に努める。

・評価活動の工夫

- ・毎時間の児童の学習状況を観察した授業記録により、本校の評価基準に基づいた評価及び評定を行う。
- ・児童一人ひとりを丁寧に観察し、資料を収集して、客観的で公正な評価をする。

・家庭や地域との連携

- ・教育活動の積極的な公開を通して、本校の教育目標を広く発信し、情報の提供を行う。
- ・地域教材、市民キャリアを積極的に活用するとともに、地域行事に進んでかかわり、「地域とともに歩む学校」を推進する。

多摩市立多摩第三小学校
 作成：平成23年8月

東京都学力調査結果の分析と改善策①

国語 内容および観点別分析					
観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
指導の重点	○日常的に国語的な場面を大切にす	○目的を意識しながら、効果的な話の組み立てを考える	○文章を推敲していく ○基礎となる言語事項を定着させる ○構成を考え文章を書く	○文脈における言葉の意味を考えながら読む ○登場人物を気持ちを考えながら読む	○文の構成に関する事項 ○漢字を文脈に即して正しく読んだり書いたりする ○辞書の活用
<p>①目標、内容に照らした学習の実施状況は良好である。</p> <p>②文脈に即して正しく読んだり書いたり、また、意味を考えながら読む活動を多く取り入れていく必要がある。</p> <p>③各自の読み取った内容をまとめて文章化していく活動を多く取り入れていく必要がある。</p>					
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み・書き・筆順・熟語などを正確に習得するように、定期的に漢字の小テストを実施し、反復練習を行う。 日常的に国語辞典・漢字辞典を活用した語句や漢字の意味調べの学習を取り入れ実施する。 目的や意図をもって書くことを学習の場に多く取り入れる。取材、選材、組み立て、事実と感想を区別して書くなど、ポイントを明確にして指導する。 相手・目的を明確にして、話す、聞く機会を多く設定する。メモをとる活動を取り入れ要点を簡潔にとらえられるようにする。 文の構成(主語、述語および修飾語)を取り上げ、指導していく。 児童一人ひとりが読み取った内容を整理し、文章化していく時間を確保し、習熟を図っていく。 段落ごとの内容のまとめ方や段落の組み立て方について指導する。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後や長期休業中に、復習を中心とした補充指導を行う。 必要に応じて個別指導を行い、定着を図る。 音読カードや読書カードなどを活用し、意欲を高める。 図書館の活用などで、読書への関心を高める。 		

(H22全国学力調査、H23～17東京都学力調査、教員の実態把握による)

算数 内容および観点別分析				
観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
指導の重点	○苦手意識のある児童に対して興味や意欲を高める	○多角形の内角の和(三角形の内角の和の活用) ○割合の考え方	○計算の習熟 ○概数処理を求められる計算 ○二つの観点からの分類・整理	○図形の面積の求め方(構成要素) ○単位の換算
<p>①課題に対し、既習事項を活用し、見通しをもって取り組み解決することができる児童が多い。</p> <p>②計算のきまりを十分理解させ、習熟するまで丁寧に指導していく必要がある。</p> <p>③図形の構成要素を作業的、体験的などの算数的活動を取り入れて身に付けさせていく必要がある。</p> <p>④言葉(文字)や式で解決方法を説明していく活動を増やしていく必要がある。</p> <p>⑤文章の内容を読み解いて、問題を解いていくような体験が必要である。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算のきまり(工夫も含む)や立式の理解が確実となるようプリント学習を継続して実施する。 小数の加減乗除の計算の習熟をはかる。 図形の構成要素を調べたり、分類・作図(定規、分度器、コンパスの使い方)をする活動を多く取り入れる。児童の理解度や習熟度に応じて少人数指導をし、丁寧に個別指導を実施する。 数学的な考え方を伸ばすために、筋道立てて考える体験を多く取り入れる。また、考え方を整理しノートやワークシートにまとめたり、発表する場を多く設ける。 解決方法を文章化したり、発表したりするための時間を十分に確保していく。 単純に解答できる課題だけでなく、いろいろな解答方法を考えられるような課題を与え、授業で深めていく。 二つの数の比べ方を十分に数直線をつかり丁寧に個別指導を実施する。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補充点を明確にし、計画的に家庭学習に取り組んでいく。 放課後や長期休業中に各児童が苦手としている単元の補充指導を行う。 他教科にもかかわるグラフの読み方、単位の換算など重点的に指導する。 	

(H22全国学力調査、H23～17東京都学力調査、教員の実態把握による)

東京都学力調査結果の分析と改善策②

社会 内容および観点別分析				
観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会事象についての 知識・理解
指導の 重点	○苦手意識のある児童に対して興味 や意欲を高める	○工業生産に従事している人々の工 夫や努力	○地図の記号および等高線の読み 取り ○資料から特色や状況を読み取る ○世界のニュースの活用	○東京都や我が国の特色や産業 ○米づくりの生産の工夫 ○我が国の政治の仕組み
<p>①グラフや資料の読み取りを事実や意味について丁寧に指導し、資料からわかったことを授業の中で書いたり、発表する機会を設けたりしていく必要がある。</p> <p>②地図記号や都道府県の位置関係と産業との結びつきを長期的に繰り返し指導していく必要がある。</p> <p>③米づくり、工業生産の特色や工夫について、定着できるようにしていく必要がある。</p>				
【改善策】			【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料からの読みとり方を丁寧に指導し、読み取ったことを書く活動を繰り返し行う。自分の考えを友だちに伝えるために、まとめたり、発表したりする時間を確保する。どこが友達の読み取り方と違うのかなどについて気付かせる。 ・日本の三大産業の盛んな地域を出てきた順に地図帳で調べ、その土地の特長を地図記号を押さえながら理解させる。プリント学習を通して理解の定着を図る。 ・四方位の理解を確実にし、資料(地図)での活用ばかりでなく、生活の中でも積極的に活用していく。地図記号と方位が関係した練習問題をし、定着を図る。 ・都道府県名を覚えるために白地図に記入する機会を多くつくり、小テストを行い、定着を図る。また、その都道府県を代表するような自然、建造物などについても話題にする。 ・日常的に新聞等で産業や都や市について話題にし、考えを述べさせるようにする。 ・見学や体験学習での事前学習の際のめあてを自覚させていく。 ・調べたことやわかったことから、考察する時間を確保し、重点化していく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解が不十分な児童については、休み時間や放課後を活用し、個別指導をする。 ・総合的な学習の時間(農作物の栽培等)と社会科を合科し、体験を通して知識を身に付けていく。 ・社会科の学習の中で資料の読み取り、考察が十分に行えるように、国語においては読解力や表現力、算数においてはグラフの読み方やかき方、概数、単位などを意識的に指導していく。 ・教師や日直が積極的に新聞記事やニュースを紹介し、児童が社会事象に注目できるようにする。 	

(H23～17東京都学力調査、教員の実態把握による)

理科 内容および観点別分析				
観点	自然事象への関心・ 意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての 知識・理解
指導の 重点	○苦手意識のある児童に対して興味 や意欲を高める	○昆虫の体のつくりの特徴 ○実験用てこを釣り合わせる要素	○温度計の正しい測り方	○豆電球の明るさと回路の関係 ○太陽の動きと影の動きの関係
<p>①課題に対し、興味をもって取り組む児童が多い。</p> <p>②昆虫の体のつくり、てこのはたらき、太陽の動き、豆電球の回路などについての、基礎的な知識を確実に身に付けさせていく必要がある。</p> <p>③科学的な事象を、「日常化」させていくための手立てが必要である。</p> <p>④状況に応じて温度計の正しい測り方を考えられるようにする必要がある。</p>				
【改善策】			【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学に関する情報に触れる機会を定期的に設ける。 ・見通しをもたせ、追究活動(実験や観察)の時間を十分に確保し、学習内容を定着させる。 ・技能を確実に習得できるように、器具の使い方など反復的に指導する。また、一人ひとりが体験し、習得できるように配慮する。 ・習得した事柄を活用した「ものづくり」に計画的に取り組む。 ・基礎的な事項については、復習プリント等で理解を深める。 ・数種類の実験の結果を比較し、それをもとに考察させる。 ・習得した知識・理解をどんな場面でも活用できるように、実験の考察の時間を十分に確保する。 ・実験結果を比較して読みとる時間を十分にとる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解が不十分な児童については、休み時間や放課後を活用し、個別指導をする。 ・実感を伴った習得ができるように、実験や観察を計画的に取り組んでいく。 	

(H23～17東京都学力調査、教員の実態把握による)

東京都学力調査結果の分析と改善策③

問題解決能力					
観点	問題を発見する力	見通す力	意思決定する力	表現する力	適用・応用する力
指導の重点	○これからも日常的な事象と日々の学習の関連づけをする指導を大切にしていく	○予想をしたり、結果を見通しながら活動する学習を計画的に行っていく	○いくつかの条件の中から根拠をもって選択できる活動に取り組んでいく	○目的に合わせた内容や方法などを習得できる体験を取り入れ、言語能力を育成していく	○課題を的確にとらえること ○考えるための基にな知識、理解の充実を図ること ○知識や技能、体験を生かす問題解決的な活動に取り組む
<p>①学力調査と比較して、どの項目でも満足できる結果となっている。 これまでの調査や本校教員による実態把握調査のけっから考えると</p> <p>②「問題を発見する力」は、文章や例文が長くなると、発見することが難しくなる児童がいる。</p> <p>③「見通す力」はおおむね満足できる結果といえる。</p> <p>④根拠をもって表現する、決定するという点は、今後の課題であると考えられる。</p>					
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の基礎となる知識や技能の習得にも計画的に取り組んでいく。 ・実感を伴った理解となるように、指導の改善、充実を図る。 ・学習した内容を日常生活に当てはめて考える活動を取り入れる。 ・必要な資料を取捨選択して活用する指導の充実を図る。 ・複数の資料から、必要な情報を読み取り、吟味・検討する活動の充実を図る。 ・児童自らが問題の解決方法を考える活動の充実を図る。 ・根拠をもって結果の予想を考えるように指導の改善を図る。 ・情報から事実を読み取り、適切に表現する活動を取り入れ、指導の充実を図る。 ・相手にとって分かりやすく表現することのできるような指導の改善により充実を図る。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に、体験的な問題解決の学習の場面を多く設定し、実践していく。 ・「総合」を含む各教科で、情報を選択していく経験を積み、実践していく。 ・目的に応じた表現の方法を習得できるように、数多くの体験をさせる。 		

(H23～17東京都学力調査、教員の実態把握による)